

ふだんの
くらしを
しあわせに

ちょボラだより



新見市社会福祉協議会では、学童期からボランティアに興味をもっていただくために、普段の生活の中で「ちょっと」したことに「やさしさ」と「思いやり」をもって取り組むボランティア活動「ちょボラ（ちょっとしたボランティア）」の取組活動を推進しております。福祉教育に関する学習と体験の機会から、児童自身が身の回りの人や地域との関わりの中で「私にもできること」を考え学ぶことにより、ボランティア意識を育むことを目的に行っております。

今年度は10月から12月の2週間の取組期間に449名の児童が取り組みました。

今年度取り組み校 15校 児童数 449名（ノート提出 398名）

学校名	取組学年	学校名	取組学年	学校名	取組学年
千屋小学校	4～6年生	刑部小学校	4～6年生	本郷小学校	4～6年生
西方小学校	4～6年生	上市小学校	4～6年生	神代小学校	3～6年生
塩城小学校	3～6年生	新見南小学校	4～6年生	新砥小学校	3～6年生
草間台小学校	3・4・6年生	思誠小学校	4年生	高尾小学校	4～6年生
神郷北小学校	1～6年生	野馳小学校	3・4年生	矢神小学校	3・4年生



児童たちの主な取組紹介



★みんなが使う広場の周りを掃除した
(落ち葉掃きやごみ拾い、川掃除など)



★花に水をあげた
★道路に落ちている木を端によせた



★ベルマークや古切手、キャップなどを集めた

★エコバッグを使った

★おばあさんの靴をはきやすいように揃えた

★大きな声であいさつした



★次の人のためにドアを開けて待っておい

★募金をした など


★ショッピングカートをきれいに戻した

★重たい荷物を代わりに持ってあげた

★お店のハンガーを整えた

★病院で席を譲った



全児童の取り組み回数
合計 3,876回 

児童の感想



- ちょボラは、「人の役に立ち、相手の人がうれしくなったりするんだな。」と思いました。ちょボラノートがなくてもあいさつ、ごみ拾い、分別をこれらも自分から取り組もうと思います。
- 身の回りの事でたくさんちょボラになるものがあることが分かりました。私たちがちょボラをしたらみんなが喜んでくれたり、助かったりとたくさんいいことがあります。これからはこうしたら誰かが喜んでくれるかな、と少し考えて行動したいと思います。
- あいさつをするとうれしそうなので、もっといっぱいあいさつをしたいと思います。
- ちょボラをすることで、少しでもいいからボランティアでみんなが笑顔になればいいなと思いました。ちょボラ期間が終わっても、ちょボラを続けたいと思います。ちょボラは笑顔になって楽しくなることが分かりました。

ご家族からのことば



- 公園から帰って「ちょボラをしてきた!」とうれしそうに話してくれました。これからも人のため、地域のために思いやりをもった行動ができる人になってほしいです。
- 自分が進んであいさつすることでお互いに気持ちよくすごせることに気がついたと思います。ゴミ拾いも行い、地域が少しでもきれいになるように行動することができました。
- 何をすれば良いか考えるのは難しいようでしたが、親子で一緒に考える時間に意味があったように感じます。やさしさと思いやりの気持ちや行動は、相手だけでなく自分もうれしく温かい気持ちになるステキなことなので、これからも一緒に無理なくできるちょボラをやっていきたいと思います。今回の取組が娘にとってボランティアの第一歩になりました。

あとがき



ちょボラに協力していただいた皆さまありがとうございました。ちょボラ運動は今年で13年目になり、「ちょボラ」という言葉が小学生の中でも広まってきているように思います。この活動が親子でボランティアについて考えるきっかけになること、一人ひとりのちょっとした思いやりと優しさがつながり、地域の笑顔が増えることを願って新見市社協では、今後もちょボラを推進していきます。

